

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人 展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」		
所在地	大分県大分市寒田235番地の16		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	平成23年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4470101967&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成22年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理事長が自ら外出の提案をし、車の運転を行い入居者を四季折々の自然に触れる機会を作っている。またその際に道の駅等で産地直送の新鮮な野菜や果物を購入し、ホームで加工し入居者へ提供している。
 ・ふる里訪問で個別対応しゆったりと穏やかな時間を過ごしていただき、家族より高い評価を頂いている。
 ・家族の面会時などに一緒に料理、おやつ作りを手伝ってもらったりして家族との交流を深めている。
 ・中庭のテラスで日光浴を兼ねて散歩をしたりお茶会を開いている。
 ・梅干や漬物等も入居者と一緒に作り提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・家族会は、利用者の家族のほぼ全員が出席している。仕事をしている家族が出席し易いように、開催時間を夜間帯にし、事業所手作りの食事を準備するなどの工夫が行われている。
 ・医療との連携が取られており、日常の健康管理や治療が行われている。重度化や終末期への不安や苦痛の緩和対応にも繋がっている。
 ・事業所は、職員のスキルアップや資格の取得に積極的支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の会議を設け皆で意見を出し合い全員で実践できているか考察し、向上に努めている。	地域との関わりを理念に挙げ、事業所運営に活かすように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	詩吟やカラオケで定期的に交流し、盆踊り大会やもちつき大会等での交流や地域の美容院利用などの地域資源を活用している。	地域との交流を意識した生活援助や、行事の開催を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治会長や老人会長から認知症に関する質問等あり、説明後それぞれの自治会や老人会に持ち帰り話あってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されており、会議では分かりやすくスライドで表し現状報告が十分なされ、また、出席者からの意見や要望等積極的に取り入れサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、3ヶ月に1度開かれている。年2回開かれる家族会を、運営推進会議と同日に開き、全利用者の家族・全職員出席の下、事業所の報告や出席者の意見を取り入れる場となるような取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、必要に応じて管理者が市役所に電話をし、担当者話し合いの機会を作っている。	夜間帯に開かれる運営推進会議には、大分市の長寿福祉課職員が、毎回出席し、担当者とのコミュニケーションも取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出や散歩も職員が付き添い自由に外に出られるような支援行っており、共通の認識を持ちケアに取り組んでいる。	外出する利用者の傾向を把握し、適切な見守り・声掛けに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に皮膚の観察などに注意しており、併設の老健施設での会議で学ぶ機会を持ち習得している。		

事業者名:グループホームふじ乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者は現在いないが個々で学ぶ機会を持ち、今後必要に応じ、支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分な説明を行い納得して載っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には言葉や態度から思いを察するように努力し、家族に対しては玄関に意見箱を設け、利用者本位の運営に努めている。	家族会には、ほぼ全員の家族の出席があり、事業所手作りの食事を取りながら、和やかに行われている。面会時などに、意見や要望を出してもらえるようにコミュニケーション作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の幹部を交えての会議やスタッフ会議等を設け職員の意見や提案を聞いている。	法人内の合同会議や、事業所独自のスタッフ会議・小会議など、意見を出せる場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や会議等で代表者が就業規則を説明したり給与の話等オープンに説明し向上心を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じて国家試験の受験、資格の取得や、スキルアップの為に法人内外の研修を受けるよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心として他の同業者(所)への見学交流を行い、ネットワーク作りに努め、良い所を検討、活用してサービスの質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向が直接把握し難い場合は、家族から本人の考え方等の情報を収集し、反映させる。または環境が変わることについて仮想論で意向をつかむ。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは連絡を密に取り、その都度不安を聞き出し、十分な説明を行いできる限りの不安の軽減に励んでいる。また、事前の見学や、職員との面談等で具体的に問題の解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設での現状を理解してもらい、他のサービス利用について紹介している。その際にそれまでの本人の生活の様子(実像)を出来る限り把握し、入居後、環境変化にスムーズに馴染むよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の特性を生かした役割分担を行っている。不安等のある方には時間を掛けて傾聴している。外出の機会を作り、マンツーマンの対応でコミュニケーションが図れる環境作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の訴えや悩み等を必要に応じて家族に報告し、協力を求めたり一緒に解決できる環境作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方々との関係が途切れないように公民館でのイベント事や散歩に出かけ交流を深めるように努力している。	知人の面会時に職員が同席し、会話やコミュニケーションをスムーズに進めることにより、面会者が、また来たいと思うような支援を目標にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の声を聞き、食事時での席の配置を工夫したり、レベルに応じた2~3人によるレクや作業を行い孤立しない取り組みをしている。また、利用者同士の関わりが難しい時は職員が間に入り、支え合えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良で退居された方に対しては入院施設に面会等に行き、その方や家族との関係を大切に維持している。さらに、その後の様子などを電話で継続的なつきあいができるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方に対する希望や意向に対しては家族の協力もえてその人らしい生活が出来るように努めている。	利用者の生活歴や好きだったことの把握に努めている。規則では、事業所内禁酒であるが、長年の習慣と希望で、寝酒を楽しむ利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族の面会時に生活歴など小さな事柄でも情報を得る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、体調の変化などに注意をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に対して思いやりや要望を聞き、全職員でカンファレンスやモニタリングに基づき介護計画を作成している。	計画作成担当者は、併設のデイケアとの兼務であるが、職員・管理者が、日常の係わりの中での気づきやアイデアを提案し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入し、全職員が情報を共有し、介護計画の見直しの評価に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ふる里訪問・公民館活動の付き添いや家族の状況に応じて、歯科受診・美容院など同行支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の好きな文化サークル(詩吟)の参加や地域美容院の利用、諸施設から協力を得ることが出来るよう、外に働きかけを心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族は、当事業所の医療体制に信頼を得ており、医師の指示で総合病院への医療連携も出来ており、家族の意向に沿った医療連携体制がある。	法人の理事長が掛かりつけ医となっており、利用者の健康管理が行われている。病状や疾患によって、他の医療機関(歯科・婦人科・総合病院等)との連携も取られており、利用者の受診記録も整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時や排泄の介助、更衣等の際全身状態を観察し気付いた点は速やかに看護師に報告し、看護師の元で確実な投薬、内服、日常の健康管理の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院が併設されており、受診し薬を処方してもらっている。万が一転倒や怪我をした場合もすぐに病院の看護師に連絡がとれ、速やかに受診できる。頻繁に面会に行き情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と話し合い、レベルの低下や状態の変化があった場合、再度家族に今後や終末期の対応(希望)を確認し、結果を職員全員で共有している。	利用者・家族・職員が、不安や苦痛を感じることなく、重度化や終末期を迎えられるよう、話し合いや医療連携の取り組みが行われている。その取り組みの下、事業所での看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、休日の緊急体制連絡は、各個人それぞれ把握できており、応急手段を月一度の会議で確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議で必ず話題を出し、再確認をするとともに、シーツ交換時にシーツを使った避難訓練や地域の小学校で消火訓練をする。	消火訓練は、全職員が体験し、災害対策に取り組んでいる。事業所は、地域の避難場所としての指定を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や朝の申し送りなどで意識しあい、さりげない言葉かけで対応し本人の誇りが傷つくような言葉かけや対応があった場合は職員間で注意しあっている。	職員の声掛けは、利用者の人格の尊重に配慮され、利用者のプライドや、利用者間のプライバシーを損なわないような対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間に飲み物の要望を聞いたり入浴時の衣類の要望を聞き自分で決められるように、本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の表情や言動を見逃さず、お話を伺いながら職員でその人らしい生活ができるよう考えて支援している。寄り添い一緒に過ごすことを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容の日を設けお化粧をしたり、近所の美容院に出かけ、パーマもかけてもらっている(美容院側が認知症を理解してくれている)美容の日以外にも本人の希望時には入浴時顔そり、男性の方は、毎日ひげそりの声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等できる人には、食器を洗って拭いてもらったり、テーブル、お盆、お箸、コップを並べてもらっている。食事時は会話を楽しくして食事をする。時には、おやつ作りも一緒に参加されている。	昼・夕の食事は、併設の老人保健施設で作られ、朝食は事業所内で作っている。毎食、栄養面に配慮された食事内容となっている。利用者の気分や体調に添った、食事場所・時間の配慮を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェック表で記録、日々チェックし個々の体調にあわせて栄養面や水分補給に努めており本人の好みに合わせ、飲み物を提供する事により水分摂取の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの動きに合わせ、本人の意向に沿って毎食後口腔ケアの支援を行っている。		

事業者名:グループホームふじ乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを調べ、その人にあったオムツを使用し失敗やオムツを減らすように自立に向け支援している。	紙パンツやパットを利用しているが、職員の見守りや工夫で、トイレでの排泄に努め、パット類の汚染減や日中の布パンツの利用で、消耗品代金(オムツ・パット類)の減額にも効果が現れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物は繊維の多い食事を作り水分補給に気をつけ、排便チェック表と水分量のチェックを行い、廊下歩行や散歩等身体を動かす働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調に合わせ、意向を尊重し入浴拒否があれば無理に誘わないようにしている。毎日、入浴希望の方は希望に沿って入浴している。	入浴希望者には、希望に沿った入浴援助をし、入浴拒否傾向の利用者には言葉掛けなどを工夫し、納得の出来た時に入浴の援助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調、本人の希望や表情からくみとり必要に応じて食事の休息をとってもらったり、本人の状況や意向にそって早めの入眠をもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的等受診時に医師より指示された事は、申し送りノートやケースに記録し、服薬の支持と症状の変化の確認に努め確実な投薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普通っていた詩吟教室に又通ったり、三味線を弾いたり、洗濯物干しや洗濯物たたみの手伝い等主婦の役割を楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年一回併設の老健施設と合同のバスハイクには希望により家族同伴で参加してもらったり、GH独自でドライブに行ったり、買い物や散歩に職員と一緒に出かけよう支援している。	グループホーム独自の外出では、理事長がスタッフとして運転し、職員が利用者のケアや支援に専念出来る外出支援を行っている。外出先では、嚥下力の低下がみられる利用者が、饅頭などを誤嚥することなく完食するなど、身体・精神面の意欲や能力の向上に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こづかい帳を作り、買い物に同行など必要なものを本人と相談しながら購入している。また、預かり金より本人希望に手渡しし買い物を職員に頼んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望で電話をかけたり写真や絵手紙を親戚の人に出したり、代筆したりしている。また、外から電話がかかってきた時は職員を介して電話しやすい雰囲気を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、食堂は照明、色彩、清潔、適切なスペースを配慮している。季節感を生け花等で採り入れている。また、畳の間に洗濯物をたたんだりテレビを観たり他者との交流を深める場として共用されている。	利用者が集う食事や寛ぎのスペースは、利用者全員が揃う食卓を中心に、畳の間に、数人で囲めるテーブルが配置され、利用者の個性に合わせた使われ方をしている。室温も、利用者へ声掛けしながら体調に配慮した調整に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間に寛ぎができ、個々の座布団を用い、肘掛椅子でゆったり過ごすことができる。テラスにイスを持っていき、ゆっくり新聞を読むことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やテレビなどを置いている。生け花が趣味の人は花を生けたりして居心地よく過ごせるよう工夫している。本人希望により、ベッドの位置を動かす時もある。	利用者の個性を大切に、家族の協力を得ながら、過ごし易い居室作りの配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の恐れのある人に対して足元にマットを置いて対応している。また、洗濯物たたみ等名前を確認して出来る人は自分で箆箆にしまったりして、自立した生活が送れるよう工夫している。		